



Rotary
Club of KOBE EAST

The Rotary club of Kobe East **BULLETIN**



神戸東ロータリークラブ会報 No.387 2018-2019 No1

表紙絵：太原 震也元会員

会長／澤田 正樹 副会長／福原 敏晃 幹事／山本 康一郎 雑誌会報委員長／小谷 哲也 副委員長／河崎 光
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ 「共に一緒に心の手つないで行動しよう」

Get Engaged Together Hand in Hand with United Hearts



インスピレーションになろう

RI President

BARRY RASSIN

2018-2019年度国際ロータリー会長





神戸東ロータリークラブ
会長 澤田 正樹
理事

「共に一緒に心の手つないで行動しよう」

Get Engaged Together Hand in Hand with United Hearts

神戸東ロータリークラブ 2018-2019 年度会長を
拝命しました澤田正樹です。これまでに築かれてき
た輝かしいクラブの歴史を引き継ぎ、敢えて荒れ野
を歩く事を厭わず、新しい景色を皆様とともに見れ
るように、使命感をもって、この1年間、奉仕の理
想を求めて邁進する所存です。

私の会長方針は、「共に一緒に心の手つないで
行動しよう」Get Engaged Together Hand in Hand
with United Hearts です。

2018-19 年度はクラブ創立 65 周年の節目の年で
す。ただし、節目の年といっても、10 年毎や 25 年
毎の大きな節目の年度と違う、控えめな 5 周年の節
目です。現在のクラブの財政状況は厳しく、現周年
事業積立金は 70 周年か 75 周年の大きな節目の年
度に残す方針と致します。5 周年の節目の意味は、
親睦や奉仕活動で培った会員お互いの信頼友情を確
固たるものにし、クラブのために一緒に行動し、ク
ラブの元気活力をアップするアクセントの年である

と思っています。この 65 周年の 1 年間、各奉仕委
員会、また、各同好会活動においては、しっかり事
業を用意していただき、来年 4 月の創立記念例会で
は、行なった奉仕事業や同好会活動を振り返り、明
日につなげる誕生祝賀会にしたいと思っています。
この 65 周年の全般の事業を統括し、記念事業とし
て取りまとめていただく実行委員長に乙守典厚元会
長をお願い致しました。

さて、各奉仕事業について基本的な考え方を述べ
ます。

職業奉仕については、1910 年（明治 43 年）頃に
ロータリーで取り上げられた He profits most who
serves best. で表現される、職業奉仕理念の学習と
実践が基本です。近年、国際ロータリー内も含めて、
この職業奉仕理念を探求したり学習したりする機会
が目に見えて減ってきています。そこで、この一年
間、職業奉仕委員会、ロータリー情報委員会、プロ
グラム委員会をお願いして、この問題を取り上げて
いただき、神戸東ロータリークラブで最も大切にし
ているこの奉仕理念を再確認する年にしたいと思っ
ています。

社会奉仕については、1923 年の国際大会で採択
された決議 23 - 34 と呼ばれている重大な声明が
あり、社会奉仕とは、仕事場、周囲の社会の中で、
相手を思いやる、必要なら手を差し伸べるといふ奉
仕の理想を適用することであり、これを実行するの
が、社会奉仕活動であると明記しています。社会に
は、知的弱者、身体的弱者等、いろいろな方がいま
す。我々が、職業を通じて得た知識や財産の一部を
使って、これら弱者の方々の社会性を高めるのは、
職業奉仕から社会奉仕に繋がる重要な考え方である
と思っています。皆様全員に、一緒に社会奉仕事業
に参加していただき、奉仕の理想を体感していただ

きたいと思っています。

国際奉仕に関しては、VTT事業の企画、姉妹クラブとの交流などを通じて、神戸東ロータリークラブは世界と繋がっているのだと会員の皆様とともに、自覚できる年にしたいと思っています。

青少年奉仕では、青少年の国際交流を受け入れて、次につなげる活動ができるよう頑張りたいと思っています。

国際ロータリーはポリオ撲滅事業を行なってきた、絶大な成果をみています。子供たちが、2回のワクチン接種だけで、ポリオ感染から免れ、生涯にわたる肢体不自由から救われるこの事業は、人類の将来を担う子供たちに対する我々の責任であり、子供たちにとってこの上ない福音です。子供たち未来の職業人を育成していく事業は究極の職業奉仕と社会奉仕がリンクした奉仕事業ではないかと思っています。奉仕の理想のもと、社会に貢献していくことは重要であり、神戸東ロータリークラブは、神戸のこの地において奉仕の理想を追求し、一方、国際ロータリーは世界の隅々に向かって奉仕の理想を広げるといふ、活動の場所やスケールには差がありますが、これを行なっていくのがロータリーと思っています。

世界中を繋いでいるロータリーの精神は、奉仕の理想 (Ideal of Service) です。この意味は、相手を思いやる、必要なら手を差し伸べる、ということです。この、相手を思いやり、手を差し伸べる、第一歩は、隣にいるクラブの仲間に対してです。親睦を通じて、相手を裏切る事の無い家族のような友人になる。これが、究極の親睦だと思っています。

二つの重点課題について述べます。一つは、クラブ財政問題です。これに関しては、高嶋良平元会長に、相談役としてご意見をいただき、今年度の予算

案を決めていきたいと思っています。もう一つは、クラブに求められる会員の多様性の問題です。この問題に関しては、三原孝公元会長に相談役になっていただき、議論を深めたいと思っています。

この一年間、私と一緒に、歩いていただき、共に行動していただきますよう、お願い申し上げます。



会員の皆様のお力添えをお願い申し上げます



副会長
理事 福原 敏晃
クラブ管理運営委員長

澤田年度 副会長を仰せつかりました福原でございます。

澤田会長方針の「共に一緒に心の手をつないで行動しよう」に沿って、副会長の責務としてクラブ管理運営委員会委員長の立場で、クラブの円滑な運営ができるよう以下の目標をもって努めて参ります。

- ①例会、クラブ協議会等その他の活動を提案、計画を立てる。
- ②会員への出席を促す。
- ③会員同士のコミュニケーションを図る。
- ④クラブのウェブサイトとソーシャルメディアサイトを管理する。

また、出席委員会、親睦委員会、家族委員会、プログラム委員会、週報委員会の各委員長、副委員長並びにメンバー全員で協力しロータリークラブ活動を盛り上げていきたいと思っております。

昨年の出席委員会より例会出席が81%以下であったとの報告を受け、85%以上にしたいと思っております。

ロータリーの基本方針はホームクラブの例会出席にあると思います。しかし仕事などで出席できない場合もあります。その際には他クラブでのメイクアップをお勧めいたします。

私は17年間100%出席いたしました。年40回の例会の内20回を他クラブで出席いたしました。

他クラブの例会のご紹介をいたしましょう。

(月) 神戸南 RC … 18:00 ~

(火) 神戸中 RC … 18:30 ~

神戸東 RC と同日になります。昼夜で同じメニューの時もありますのでご了承ください。

(水) 須磨 RC … 12:30 ~

桜の季節は記名のみでメイクアップができます。

(木) 神戸 RC … 12:30 ~

格式ある RC でポートピアホテルで行われています。

明石西 RC … 17:30 ~

垂水 RC … 18:30 ~

舞子ビラで行われています。

(金) 神戸西 RC … 12:30 ~

他クラブの例会に出席して神戸東ロータリークラブがどこよりも素晴らしいロータリークラブであることを実感いたしました。

一昨年、横山年度の時に補助金事業として各事業所の方にお越しいただき、お菓子をお伝えいたしました。

その中の作業所の一つボレロさんへオープン等を寄贈し、3年間指導することをコミットしてメンバーにお誕生日プレゼントとして焼き菓子の詰め合わせをお届けさせていただきました。

昨年の吉井年度の時には、更に補助金事業として社会奉仕委員会鈴木委員長による素晴らしいデザインの店舗を作らせて頂き、ボレロさんの売上が2倍以上になったと聞いています。

その店舗では他作業所さんの商品も販売させて頂いています。

今年はNPO法人クルーズの川崎代表のご提案により、4つの事業所の商品等を詰め合わせ、パッケージも一新され作業所の方の力作の図柄になっています。

最後になりましたが、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたしまして、副会長就任のご挨拶とさせていただきます。



幹事
理事 山本康一郎

今年度、伝統と格式ある神戸東 RC の幹事の大役を仰せつかった山本康一郎でございます。どうぞ一年間宜しくお願い申し上げます。

「平成」の年号も天皇の退位に伴い平成 31 年 4 月 30 日で終わり、皇太子さまが翌 5 月 1 日に新天皇に即位され新年号元年が始まります。澤田会長年度は元号の改元の時期に重なり、そして、創立 65 周年の節目の年にも当たります。我がクラブでは 70 周年、75 周年に向けて次世代につなぐ大きな奉仕事業の計画を進めております。また、青少年長期交換留学による派遣生の送り出し、そして、ホストファミリーによる交換留学来日生の受け入れ、米山奨学生である程 楊君のサポートなど重要事業が目白押しであります。現在は、実現に向けて検討を繰り返しており、パワー溢れる委員長や繊細緻密な委員長の頑張りやアグレッシブにチャレンジする澤田会長のためにも幹事の役割は重要と考えています。そして、それぞれの委員長様やカウンセラーの皆様とともに毎週の楽しい例会の運営に務めながらも気を引き締め、汗を流していきたいと思っております。

しかしながら、小職、見た目は若いほうですが幹事就任時の年齢は 64 歳であります。

梅田前年度幹事のように、若くてフットワークよく幹事職をこなすことはもはやできません。また、入会は平成 5 年 6 月でロータリー歴は既に 23 年となりますが、平成 18 年から平成 28 年までの 10 年間は所属する建築士事務所協会での業界活動が忙しくロータリーはお休み状態でもありました。よって、ロータリーに対する経験も見識も不足しておるのが実情であります。

このような私ですが、一昨年 12 月に澤田会長より幹事の依頼を受け、澤田会長の真摯な姿に魅せられたのか、魔が差したのかお引き受けすることになりました。私を指名した理由をお尋ねすると、会長曰く、入会された最初の例会が創立例会で、席が隣同士となり私がロータリーのことを説明したそうです。その程度の理由でしたが、神戸東 RC には素晴らしい会員が沢山おられる中、私に声をかけて頂き幹事として貴重な経験をさせて頂くことに大変感謝をいたしており、できる限りの努力をするつもりであります。

就任まで 1 年半にわたり澤田会長のご指示のもとに準備を進め、そして、船出をしました。私から思う澤田会長の人生並びにロータリーに対する熱意は「会長、半端ない！！」の一言で表現できます。

私は、会長方針「共に一緒に心の手をつないで行動しよう」に基づき各委員長が委員会活動をしやすくするために協力したいと思います。常に「幹事の役目は何か」をしっかりと考えて事務局とともに尽くしていく所存であります。そして、会員の皆様には会長方針に掲げる『心の手』を伝えるとともに会員の声も執行部に伝えていきたいと考えております。

この一年間、澤田会長、福原副会長を支え微力ではありますが、更に居心地の良いクラブ造りを目指して頑張っ参ります。重ねての皆様のご協力と温かいご支援を心からお願い申し上げます。



2018-19 年度国際ロータリー第 2680 地区

ガバナー 矢野 宗司
—加古川中央 RC—

神戸東 RC の皆様、本日は宜しくお願ひ致します。

先ほど澤田会長が鳴らされた鐘は 2020 年の日本のロータリー 100 周年を記念して、100 周年実行委員会と東京ロータリークラブによって作成されたものであり、台座には 2680 地区の各クラブの名前が創立年度順に刻まれています。本年度と来年度の 2 年間、公式訪問にこの鐘を持参して、クラブの会長に点鐘をしていただくように、要請を受けております。

さて、本年度の国際ロータリー会長はカリブ海、バハマ出身のバリー・ラシン氏です。しかしながら、本来はアフリカ、ウガンダ出身のサム・オオリ氏が会長になる予定でした。そのオオリ氏が会長エレクトになって 2 週間足らずで、手術後の合併症で急死され、8 月になって開かれた指名委員会で急遽決定されたのが、バリー・ラシン氏です。従って、彼はノミニーの経験がなく、いきなりエレクトとして間近に迫ったサンジェゴの国際協議会を迎えることとなります。

私の経験においても、ノミニー時代は極めて大切です。地区内の事業や委員会に出席して、問題点をしっかり確認し、来たるガバナー就任に向けて、

方針や組織を検討するその大事な時期を経験されなかったバリー・ラシン氏でしたが、サンジェゴでの開会式後の講演は自信に満ちあふれた素晴らしいものでした。私たちは感動して、何度も立ち上がって拍手を送りました。

本年度の国際ロータリーのテーマは、「BE THE INSPIRATION」(インスピレーションになろう)ですが、日本人には馴染みにくい表現です。これを理解するためには、昨年のアトランタ国際大会でこれからのロータリーの方向性を示して強調された 4 つの言葉がキーワードになります。すなわち、connect (つながる)、end polio (ポリオ撲滅)、transform (変革する)、inspire (刺激を与える) です。バリー・ラシン会長はその 4 つ目のキーワード、inspire を踏まえて、BE THE INSPIRATION をテーマとしました。

従って、BE THE INSPIRATION とは、「前進への刺激となる活力になろう」ということを意味し、ロータリアンとしては、自らが人々を導く活力となり、ロータリーとしては、地域社会や国際社会をより良くするための活力となる団体になろうと捉えることができます。

また、バリー・ラシン会長は、120 万人の全会員がつながり、潜在力を最大限に発揮するように inspire することができれば、ロータリーはさらに飛躍できる、また、世界中でロータリーが行っている素晴らしい活動について世界がきちんと理解できるように、ロータリーの実績を PR してほしいと訴え、RI とクラブのつながり (connect) とともに公共イメージと認知度の向上を強調されました。

この connect を強めるため、私は今年この地区方針の一つに My ROTARY の登録率 50% 以上を掲げました。そして今朝、訪問前にチェックしたところ、当クラブの登録率は 17.7% でした。まだ、多くの人がつながっていないこととなります。是非、多く

の人が登録するよう、よろしく願い致します。

地区ではガバナー行動指針として、「変化(Change)を恐れず、変化をリードし、新たな機会(Chance)と捉え、挑戦(Challenge)していく」を掲げました。

ここで、ロータリーの変化について触れたいと思います。

日本のロータリーにとって、その帰属意識の根源となる4つのidentityがあります。すなわち、①例会重視 ②職業人の集まり(一業種一会員制) ③職業理念、職業倫理の重視 ④個人奉仕 であります。

しかしながら国際ロータリーは近年、会員数の停滞も相俟って、色々な変革をしてきました。それがidentityの変化であります。すなわち、例会重視から奉仕プロジェクト重視への変化、実際に地区内のクラブにおいても本年度から例会を月3回に減らすクラブも現れてきています。また、会員基盤の多様性を踏まえて、職業人以外も会員にする事が認められました。それによって職業理念、職業倫理の重視よりも職業奉仕を奉仕プロジェクトの一つとして捉えるようになってきました。また、ロータリー財団主導により、個人奉仕より団体奉仕に重点が置かれるようになりました。このような国際ロータリーにおけるidentityの変化に対して、私たちはidentityの再構築をする必要があるのではないかと考えます。変化を恐れるのではなく、変化をリードする必要があるのではないのでしょうか。

多様なロータリーという点では、当地区では2000年の尼崎中RCの設立以来、地域に根差した従来型のクラブは生まれていません。むしろ2013-14年度から4つのクラブがそれぞれの事情のもとに姿を消しました。その反面、21世紀型のロータリークラブと言われる3つの新クラブが生まれました。ところで、5月時点での当地区での会員増41名のうち、新クラブは11名を占めています。

3クラブの会員数比率は地区の2.7%に過ぎませんが、会員増の27%を占めています。また女性会員は12名の増加、会員増の29%を占めています。世界では女性会員比率は20.7%、もし、今でも男性会員のみだとすれば、会員数は100万人を割り、1987年以前に戻るようになります。一方、日本では、6.6%、当地区は4.38%と34地区のうちワースト2ではありますが、会員増比率を見るに着実に変化は表れています。

さて、バリー・ラシン会長の強調する項目に「ロータリーデー」の開催があります。クラブで、あるいはグループで、さらには地区で大規模なロータリーデーの開催をし、公共イメージの向上を図ってほしいと呼び掛けています。

私自身、今年度の方針として8つの変革と3つの挑戦を掲げました。そして、その挑戦の一つがロータリーデーとしての「HYOGO フェスタ」の開催です。本年度の兵庫県政150周年を祝い、11月3・4日にメリケンパークで兵庫県政150周年記念事業として開催します。県からも500万円の助成金を頂くことになりました。日頃、地域社会にしっかり貢献しているロータリークラブに期待する旨、井戸知事からもお言葉を頂いております。ロータリーファミリーと共にロータリーの公共イメージと認知度の向上を図りたいと思います。HYOGO フェスタの成功に向けて、是非とも皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

また、もう一つの挑戦が地区大会を私の地元である加古川で開催することです。従来の神戸での開催と違い、メンバーが手作りで準備を進めています。それがまたメンバーの活性化にもつながっています。是非、インスピレーションをもたらす大会にしたいと思います。最後になりましたが、一年間の皆様のご協力をお願いして、ガバナー訪問の挨拶とさせていただきます。



職業奉仕委員長
理事 松井 照男

この度、職業奉仕の委員長を拝命いたしました。松井照男でございます。早速ではございますが委員会メンバーの紹介から始めさせていただきます、副委員長として榎野孝人会員にお願いしました。彼は、政治家と、もう一つの顔は立派な実業家であります。彼が今まで出会った人脈や情報あるいは企画、それは、私にとって大変重要な知恵袋となっただけのものだと確信しております。そして、委員として赤木文生バスターガバナーをお迎えして一年間しっかり勉強させて頂きたいと考えております。そしてロータリーの経験豊富な田中健三会員、佐井奇正会員、若手から相馬政宏会員、森本光一会員にお願い致しました今年度は、私を含め7人で頑張っていこうと思っております。たくさんの情報から会員の皆様にとって、有意義で内容のある職業奉仕プランをインフォメーションできるよう一年間努力いたしたいと存じます。

さて、お話は、本題に入りますが、私は、入会以来奉仕という概念は、会員と親睦をはかり、他の人へ物と時間を奉仕するぐらいの事しか理解ができていませんでした。しかしながら今回のご縁で、少し奉仕についてを勉強する機会をもらいました。そこ

で気付いたことは、ポールハリスは、1907年から親睦団体であるクラブの中に奉仕の概念を入れようとした、しかし2年前の創立時は（創立1905年2月23日）けっしてそうでなかったと言うことであります。おおよそ想像するに親睦ありきの職業人の集まりからスタートし又、一業種一社という考えから仲間内の小さな枠組みで互いに紹介し合える環境と、職業交流を中心とした商売を発展させていく、むしろ会員相互の発展と営利を目的とした団体ではなかったのではないかと推察されます。

私は、この考え方は決して間違っていないと思います。それが証拠にロータリーへの入会が促進され現在に至っているからです。フレデリック・A・シェルドンがその一年後の1908年に入会して職業奉仕の概念を更に探求したと思います。以前のアメリカの平均的な実業家の座右の銘は、自分がしようとすることを他人がしないうちに、最初にするものであり、他人のために善意を行うのではなく、むしろその逆のを行う風潮でありました。

もちろん注目すべき例外があったとしても、それが鉄則であったと考えられます。商売の原則は、「買手の自己責任」すなわち、買手が用心することであったと言っています。それは、だます人よりもだまされる人が悪いという、現在のアメリカ社会に今も存在しているからです。我々日本人にとって到底考えつかないことですがそれが現実であります。

そこで私が考えるにロータリーは、より良い実績と、力のある職業人が仲間を集い商売の秘訣あるいは、情報と人脈とをできる限り共有し、しっかり利益を上げ雇用を安定させ多くの会員が互いに栄えていき、他の奉仕活動（社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕）への積極的な参加を促し、更には米山記念奨学会への寄付増進につながる潤滑機能が職業奉仕ではないかと思えます。

それで今年度、委員会として、プログラム委員会

とタグを組み、

「会員職業奉仕卓話」と銘をうち、会員卓話の機会を設けて、今年度は、上半期2回、下半期2回と合計4回を予定しております。卓話のお題目としては、

- ①将来会社の歩むべき方向
- ②トップとしての方針又は、経営上のこだわり
- ③業績アップあるいは、目標達成の秘訣
- ④社員モチベーションのもっていき方
- ⑤今後逼迫する雇用問題について
- ⑥管理職の指導、教育、育成方法
- ⑦後継者問題並びにその育成方法など

その他これまで会社運営において最も追い詰められ困窮した事例や又それをどうやって克服したか等も含めて、お話し頂ければ会員にとって大いに参考になると思われます。会員卓話の目的は、すべての会員に有益な情報として会社繁栄、増収増益のヒントになればと考えております。又、このような会話が例会時を含め日々会員間で話し合える関係こそが職業奉仕理念につながるものと確信しております。どうか何卒一年間趣旨をご理解頂きご協力賜りますようお願い申し上げます。





社会奉仕委員長
理事 石原 守

本年度社会奉仕委員会委員長を仰せつかりました石原 守でございます。一年間皆様にはいろいろとご指導をいただきながらさまざまな行事の参加をお願いすることも多々あるかと思いますが、どうか初心者委員長を導いていただければと思います。

二年前に入会させていただき、親睦・家族委員会と経験し、皆様のお名前を覚えることばかり考えておりましたので、ロータリーの本質の部分、意味、行動など全然まだまだできていないのが実情です。奉仕の理念、社会奉仕、職業奉仕などこの一年を通じてみっちり勉強していこうと思います。

さて、委員会のメンバーには副委員長に関本 剛会員、畑崎廣敏会員、塚本哲夫会員、植村孝一会員、工藤恭孝会員、三野哲治会員、光葉應宏会員と多方面で大活躍されている方々ばかりで私にとってこれ以上ない強力な体制で臨んでおります。

活動内容ですが、前年度からの継続事業といたしまして神戸東プロバスクラブへのご支援、神戸市立友生支援学校生と神戸市立青陽東養護学校生の招待ボウリングは生徒さん達も楽しみにされているので、六甲ボウルのご協力を得ながら開催を予定しております。また前年度から引き続きNPO法人クルー

ズの支援を予定しております。今年度は友生支援学校の「さをり織」のコースターを皆様のバースデープレゼントに加えさせていただきました。これによって生徒たちの目標ができた先生からとてもうれしいお言葉をいただきました。

続いて本年度地区補助金承認をおかげさまでいただきました社会奉仕プロジェクトをご説明いたします。

車いすテニスを介した障害者と健常者の交流支援として、車いすテニスでは世界的プレーヤーの上地 結衣選手によるニューミックスのエキシビジョンマッチをワールド記念ホールで開催し、当日例会における卓話をしていただく予定でございます。車いすテニスは日本から男女ともグランドスラム大会においてチャンピオンを輩出している障害者スポーツで、ツーバウンドで返球が認められている以外は、ルールやコート設備は健常者テニスとかわりなく、障害者と健常者が組むダブルスをニューミックスといい、例年兵庫県で行われる車いすテニスの国際大会である「ダンロップ神戸オープン」において優勝経験のある男子の中野選手にもご協力いただき、兵庫県出身でもある国際テニス連盟世界ランキング一位の上地 結衣選手を交えてエキシビジョンマッチを行い、そこへ特別支援学校の友生支援学校の生徒、ご父兄を招待いたします。

東京オリンピック、パラリンピックを目前に控え、地元排出の代表選手の試合を観戦し交流することは、障害をもつ青少年の育成や、障害者の社会参加を推進する重要な機会になりえると確信しております。

これをきっかけに生徒さんの中でテニスを始めようとおもっていただければ日本の車いすテニスの普及に一翼を担うと考えます。

それにはテニス用の車いすを三木市にごいすビーンズドームへ寄贈させていただき今後の普及

のお役にたてればと思います。

エキシビジョンマッチの様子などは、神戸新聞、読売新聞、産経新聞などに取材していただき広く広報活動も行う予定です。

具体的内容は現在検討中と、上地選手のスケジュールも国際テニス連盟の予定が確定してからの動きとなります。ダンロップ神戸オープンのトーナメント・ディレクターの津島様（住友ゴム工業株）と綿密にご連絡をとりながら開催されるよう努力してまいります。

最後になりますが、委員会の皆様はそれぞれにテニス界とのご関係もあり、私自身も幼少よりお世話になったテニスに対して心の奉仕を皆様とともに「共に一緒に心の手をつないで行動しよう」をテーマにプロジェクトを計画・遂行してまいります。





国際奉仕委員長
理事 松谷 齊泰

この都度、国際奉仕委員長を拝命させて頂きました、松谷齊泰です。この一年間よろしくお願ひします。

さて今年度会長のテーマ〈共に一緒に心の手をつないで行動しよう〉を基に、会長の想い【神戸東ロータリークラブは世界と繋がっているのだと会員の皆様とともに自覚できる年にしたい】を具現化することにより、RIの理念である国際理解、国際親善、国際平和活動を推進していきたいと思っております。

具体的活動内容としましては、

- ①シスタークラブとの維持発展に努めます。
- ② VTT（職業研修チーム）事業の企画。

グローバル補助金を活用し、カンボジアでの子宮頸がんの診断に関わる質の向上をめざし、カンボジア病理技師の能力向上のために日本での研修を実施する。

- ③人道的プロジェクトへの理解を深め、グローバル補助金プロジェクトへの協力をする。
- ④国際奉仕に関する問題の対応を行います。

この4つの項目が今年の重要活動ポイントです

が、特に②のVTT事業の企画、実行に力を入れたいと思っております。このプロジェクトはプノンペンメトロロータリークラブとの共同提唱事業として取り組んでいきます。このプロジェクトの事前調査として6月中旬にベトナム経由でプノンペンに行き、プノンペンメトロロータリークラブの方々と3つの国立病院を訪問しました。そこで感じた事は、国が若く成長段階（昨年度成長率7%）にあるとゆうこともあるのですが、街は活気に満ち溢れ、何か日本の終戦直後を彷彿させるような感覚に陥りました。日本で感じる閉塞感と比べる時、何故多くの若い日本人がカンボジアのような東南アジアに来てビジネスを始めるのかも理解できると思います。

今回のプロジェクトを通じてカンボジアの病理技師さんが5名、神戸で2週間研修される予定になっており、色々な機会を通じて神戸東ロータリーのメンバー様にもカンボジア病理技師さんとの交流を図る機会を持っていただきたいと思います。このプロジェクトがただ単にカンボジアの病理技師さんたちが神戸で日本の優れた技術の研修をするだけでなく、カンボジアの人たちに日本の文化を少しでも感じ、理解していただければと思っております。さらに我々もこのプロジェクトを通じて、カンボジアそしてカンボジアの人々について理解を深めることにより、国際交流を深め、少しでも両国の相互理解の一助になればと思っております。

この一年間よろしくお願ひいたします。



青少年奉仕委員長
理事 田中 寿夫

今年度、青少年奉仕委員長を仰せつかりました田中寿夫です。この1年間、会員の皆様には、行事、奉仕活動のご協力をお願いすることも多々あるかと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

活動内容をクラブ行事と、地区行事に分けて発表いたします。

まず、クラブ行事としては、毎年恒例の王子動物園での永田萌さんの写生会です。

入会1年目の方は、ご存じないとは思いますが、子供100人を募集して、画家の永田萌先生の一日絵画教室を王子動物園で、神戸東ロータリークラブの企画の元、行う行事です。日時は、11月25日(日)8時45分、王子動物園に集合。15時、終了予定となっております。委員会メンバーだけでは到底こなせる行事では無い為、皆様のご参加、ご協力を、お願い致します。

今年は、子供たちの参加者にロータリー枠を設けております。皆様の、お子さん、お孫さん、更には、そのお友達が自由に参加できる枠を20とか30設ける予定です。事前に王子公園側に、ロータリー枠を伝える必要がありますので、参加希望のお子様がいましたら、田中まで人数を教えてください。

次に地区行事として、3つあります。

1つ目は、青少年長期交換派遣生・来日生です。

派遣生は、山手女子高校から8月にハンガリーに出国。

カウンセラー 梅田 稔会員にお願いしております。

また来日生も8月に入国。8月27日には始業式があります。メキシコから来る女子高生で、同じ山手女子高校に通学。今後毎月1度、この例会に参加予定となっております。

カウンセラー 関本 剛会員

第一ホストファミリー 鈴木祐一会員にお願いしております。

異国の地の女子高生を1年間、お預かりする大事なプロジェクトです。

カウンセラー、ホストファミリー委員会だけでは到底こなせません。

皆様の、温かいご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

地区行事2つ目は、インターアクトクラブ設立に向けてです。

県立神戸商業理科部の石川先生から要望ありとの連絡がありました。

インターアクトクラブは、1年行事ではなく、長期行事となる為、来期以降のことも考慮して、委員会で調査、研究をしまいたします。

仮にクラブ設立となれば、月に1度は、神戸東ロータリークラブのメンバーが、そのインターアクトクラブにアドバイザーとして参加していかなければならず、その為には、青少年奉仕委員会ではなく独自の委員会を別に作る必要があるとの結論に達しています。

皆様の、ご参加、ご意見をよろしくお願いいたします。

地区行事3つ目は、RYLAセミナーへの参加者を募る、送り出す、です。

以上、青少年奉仕委員会の、この1年間の活動計画です。

皆様、どうか、委員会の枠を超えて、共に一緒に心の手をつないで行動して頂けます様、宜しくお願い致します。



RI2680 地区
2018-2019 増強拡大委員会
委員長 宇尾 好博

「会員増強に果たすクラブの役割」

本日は、お招きいただきありがとうございます。一生懸命に会員増強を行っているのに、尻を叩きに来たのかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は、地区内での卓話要請は井元委員長が最初でございました。神戸東の事を良く知らない私がお話しますと、ピントのずれた事になるかもしれませんが、ロータリーの友情を持ってお許しいただければと思います。

今日は、「会員増強に果たすクラブの役割」について皆様と考えたいと思います。神戸東 RC の現状を3月に行いました過去5年間についてのアンケート調査から見てみます。クラブの年齢分布は少し不満とされており、40代19%、50代24%、60代31%、70代26%です。同じ規模のクラブとの60才未満比較では、神戸52%、神戸南55%、神戸東43%、姫路35%でこの辺りに不満があるように思われます。しかし、ポテンシャルの非常に高いクラブと言えます。特に、新入会員は40・50代85%>地区75%です。しかし、退会者ロータリー歴5年以内49%>地区43%で地区平均を上回っておられ

ることが問題かもしれません。更なる会員の維持のために、入会歴の浅い会員を対象に、ロータリーについての認識を深める研修プログラムを積極的に企画して実行されてはいかがでしょうか。

会員の維持・増強に危機感のあるクラブは57クラブ78%ですが、クラブとして会員増強活動プランを実施していないのは51%、退会防止対策を行っていないクラブは66%、神戸東 RC は会員増強プランを実施しておられますが、会員維持につながる対策はされておられません。

皆様は、ロータリーが大好きですか。大好きでも、会員候補者にロータリーへの想いを上手く語れない、説明が上手くできない、情熱を持って語れない会員もおられます。当地区の2016年次年度職業奉仕委員長への職業奉仕アンケート調査によると、ロータリーの目的を理解している方が64%、決議23-34を理解している方が33%、職業奉仕は難しい・どちらともいえないは73%でした。つまり、ロータリーの知識そして経験が不十分というところにも原因があるのではないのでしょうか。

我がクラブに会員増強は必要か、クラブの理想とする会員数は、クラブの会員増強などの変化を好まない風潮はないか等の視点から会員増強と向き合ってみてはどうでしょうか。

鉢植えの植木の鉢を何年もそのままにしていると、大きく育つ元気のある木も成長が止まります。新しく大きな鉢に植え替えると大きく根を張り、木も大きく育つものです。あるいは新しい鉢に株分けをすることも考えられます。私達は、大きく育つ元気な目を摘み取り、ロータリーの盆栽を育てるために集まっているのでしょうか。会員数に上限を設けることなく、あるいは新しいクラブづくりのスポンサーになることを考える時期が来ているかもしれません。

今年の RI 会長のテーマは「インスピレーション

になろう」です。「クラブの変革に新たな発想、ひらめき、リーダーシップを発揮するインスピレーションを起こされてはいかがでしょう。特に、神戸東RCは、いくつもの子クラブを生み出す実績をお持ちです。ぼちぼち皆様のクラブの本領を発揮して新しいクラブづくりに取り組んでいただきたいと切にお願い致します。

さて、企業の生産性を高めるために、企業と個人が努力しても、企業風土の改革が出来ないと上手くいかないと思われま。企業理念の浸透あるいは再構築が必要となります。クラブの5年後・10年後を考え、ロータリーという人生哲学が今まで以上に、会員に浸透するようにしなければと思います。会員増強は、社会にロータリーの理念をもっと広めたい、良き友を増やし、会員の多様性から多くを学び、良きロータリアンを地域に増やしたいために行なうものであり、会員増強でクラブの品格を落すことは絶対に避けなければなりません。

皆さんは、例会にどのような気持ちで参加されていますか。会長は、何を語り、会員は何を得ましたか。理事役員はその役割を果たしていますか。倫理観のある人は仕事の手抜きをしないものです。会長挨拶でロータリーを語りましょう。会長はクラブの変革のリーダーであって頂きたいし、その気が身体に満ち溢れて頂きたいと思ひます。地区研修・協議会で会員増強委員長に、「クラブの具体的な会員増強プランを立て、実行することこそが大切であると思ひます。具体的なアクションとして、例会の度に、会員増強について話をしてみてはいかがでしょう。1年間やり抜くと、会員の意識が変わり、クラブの雰囲気が変わり、会員増強につながるのではないでしょう。熱く、しつこく、繰り返して頂きたい。」と話しました。井元委員長は、「会員純増3名を目指します。」と色紙に決意を書きました。が、皆様のクラブの活性化のためにも、余力のあるクラ

ブとして、ぜひとも新しいクラブづくりへの新たな一歩を踏出していただければと思ひます。

会員増強の本当の課題は、「ロータリーを語る会員が育つクラブ運営」にあります。それは、会員維持の要でもあります。始めることは易しいがやり抜く力が大切。 「断行」と「遂行」により、魅力あるロータリークラブを目指して頂きたいと思ひます。





神戸コンチェルトにて 「真夏のナイトクルーズ」を開催しました



8月28日夜、今年度第1回会員親睦会、神戸コンチェルト「真夏のナイトクルーズ」を開催しました。天候が心配でしたが、最高のクルージング日和。参加会員50名、各テーブルでの会話も弾み会員同士の親睦を深めることが出来ました。ピアノと声楽の生

演奏に魅了され会場は大いに盛り上がりました。最後は「手に手つないで」を全員で合唱し和やかに終了しました。

(親睦委員長 香山道宣)





余韻会 (俳句同好会)

平成三十年六月三十日選 投句例会

教会の鐘鳴り響く五月晴れ
白羽 子誠

五月雨や覚悟を決めた様に降る
角田 伯堂

子子や楽譜のやうに上下する
則岡 弘士

狭き庭天竺葵にむせ返る
壺井 仙岳

肩の張るミシュラン料理に紫蘇ご飯
早馬 政宏

訪ね来て青田の牛の音楽堂
橘 恵子

五月雨や駅舎に急ぐ人の波
松原 氣宏

さみだれの降りみ降らずみ家籠り
村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成三十年七月二十七日 於 西村屋 花みかげ

待ちわびて日々是好日山開
奥田 好子

寝転んで受ける大暑の歯科治療
執行 執艸

いつまでも付き合ひ続く水虫よ
白羽 子誠

半月のあつけらかんと夏の空
角田 伯堂

あばれずに一休みせよ水虫君
塚本 宗哲

地図広げ胸はづませる山開
橋本 豊翔

本堂を出て一山の蟬時雨
壺井 仙岳

かやぶきに雷雨宿して明通寺
松谷 泰山

山開笑顔の巫女の赤袴
吉井 聖倅

簡単に育つ水虫打つ手なし
早馬 政宏

水虫も逃げる最高気温かな
関本 剛紀

虹立ちて観光船の出航す
松原 氣宏

真新し靴紐しかと山開
村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成三十年八月三十一日

於 西村屋 花みかげ

丸々の魔法かけたき南瓜かな

奥田 好子

品評会夕日に映ゆる大かぼちや

角田 伯堂

外見より中身が勝負栗南瓜

塚本 宗哲

南瓜煮る妻の横顔輝きて

橋本 豊翔

中元の宛先ふたつ減りしかな

壺井 仙岳

奉納の南瓜並べて村歌舞伎

吉井 聖倅

何好む選ぶ楽しさお中元

早馬 希閃

小豆炊き老舗を守る秘伝かな

松原 氣宏

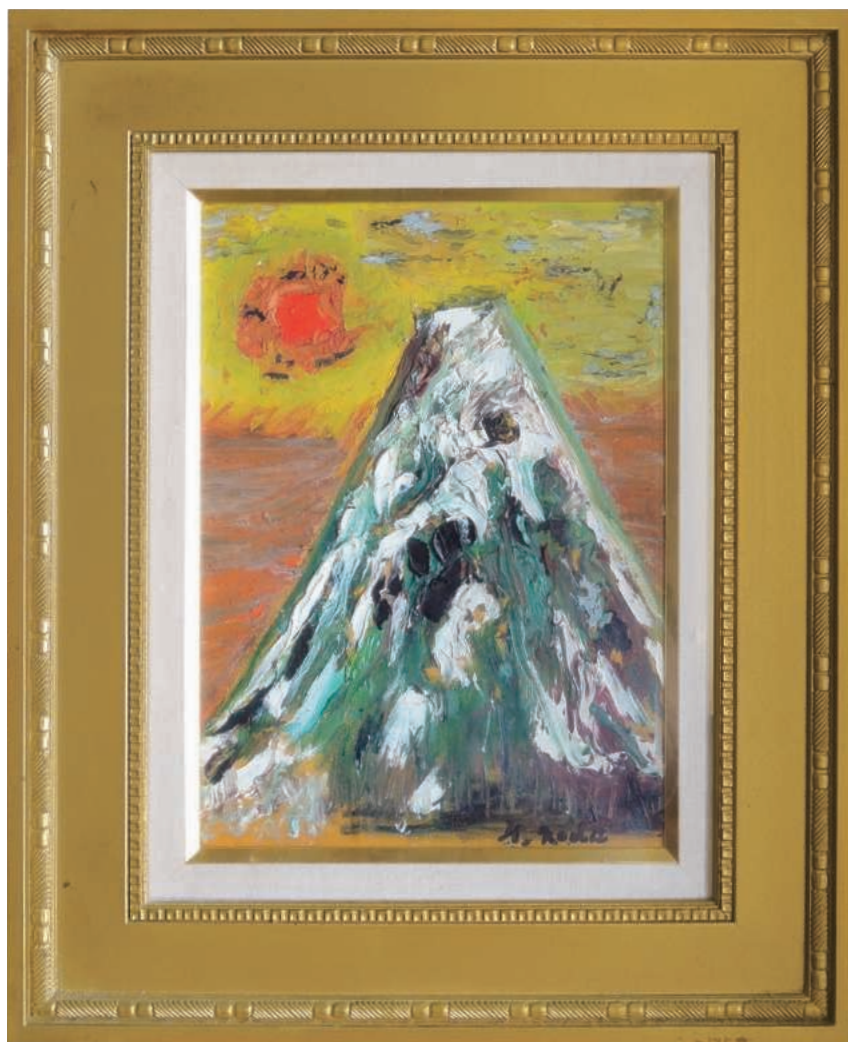
なおぎりの畑に南瓜の五つ六つ

村野 離翔

残りたる暑さといふにすさまじく

橘 恵子





絵と文 野田 晴清

「富士山」
私の想像と日本一の山

CONTENTS

3 役就任挨拶	1
ガバナー公式訪問	5
4 大奉仕委員長就任挨拶	7
会員増強・新クラブ結成推進月間にちなんで	13
第一回会員親睦会	15
余韻会	17

編集後記

2018-2019 年度広報委員長を拝命いたしました、小谷哲也でございます。

澤井会長の「共に一緒に心の手をつないで行動しよう」という活動方針のもと、今年度の様々な活動を価値あるものとして、メンバーの皆様にはもちろんのこと、外部に対しても、発信し共感いただけるような神戸東クラブ会報誌になるように、尽力させていただきます。

入会年度も浅く、経験もありませんので、ご支援いただけましたら幸いです。

1年間何卒よろしくお願ひ申し上げます。

広報委員長 小谷哲也